

平成30年度 琢成小学校の学校経営

【建学の精神】

『玉不琢 不成器 人不学 不知道』（中国の古書「礼記」より）

I 学校の教育目標 「高きを求め、心を磨き、ともに未来を拓く 琢成の子ども」

〈めざす子ども像〉

“かしこい知恵のふもとを築く” 琢成の子

（知的好奇心、多様なものの見方考え方、学びをつなぐ広げる ← 活用、探究）

“声かけあって未来をめざす” 琢成の子

（主体的、責任感、共感・共生、公益の心、見通す力 ← 夢や希望、仲間とともに）

“心と身体を日々きたえる” 琢成の子

（挑戦、達成感、健康・体力、食や身の周りの安心・安全 ← 自律、自己管理）

II めざす学校像

○子ども達一人一人を大切に、温かなふれあいが広がる学校

○子ども達一人一人の意欲を引き出し、よさを伸ばす学校

○子ども達とともに創意工夫し、さわやかな挨拶と笑顔があふれる学校

＊「学校の教育目標」具現化に向けた取り組みを通して、保護者・地域から信頼される学校

III ありたい教師像

○「あなたが大切・あなたを知りたい」という気持ちを常に持ち、子どもの心に寄り添える教師

○小さな進歩やよさに気づき、好奇心の目を広げ、次への意欲を引き出す教師

○子ども達の手本や目標・あこがれとなるように、日々進化し学び続ける教師

IV 学校経営の重点 【社会的自尊感情 Doing】【基礎的自尊感情 Being】

平成30年度 **共感・感動を生むために**

「めりはり」・・・やる時は集中し、本気で取り組む

「心を合わせる」・・・よりよい学校を創るために全校で徹底して取り組む

1 安全・安心な学校づくりの推進

（1）命や生き方を大切にする教育を推進する。

①人と人とのふれあいやかかわりを深める。（いのちの講話・メッセージ交流：保護者や地域の方からも）

②「個：自尊感情を高める」「学級：友達とのよりよい関係づくり」「学校：リーダーシップとフオリシップ」を意識した取り組みを進め、全教職員で積極的生徒指導に努める。

（いじめの未然防止・「いじめ防止基本方針」による・・・**人権教育**の視点を意識

学級経営力の向上が見える化・やさしさや頑張りを家庭でもほめてもらうプチメッセージ）

（2）実際に生きる防災マニュアルの見直しと、教職員が危機管理意識を高め、日々の児童の姿から危険を予測し、情報の共有化と改善を図る。（「学校保健・安全計画」に基いた指導）

また、家庭・地域・関係機関と連携し、危険回避できる学校体制の整備・維持を図る。

V 指導の重点 ～「人間力に満ちあふれ、酒田の未来をひらく人づくり」～

1 「声かけあって未来をめざす」・・・響き合う温かな心をはぐくむ指導

(1) “違い”を認め合い、支え合い、高め合う集団の育成

- ①縦割り活動を中心にして、人と人とのふれあいを大切にし、心を通わせみんなで創り上げる喜びや達成感を味わわせる。 ※生徒指導の三機能（自己決定・自己存在感・共感的人間関係）
- ②一人一人が活躍できる場を設定し、お互いを認め合う中で、自尊感情や所属感を高める。
- ③自分たちの生活を見つめ気づき考え、よりよい集団目指して力を合わせる。（授業・児童会活動）
- ④【共感・感動を創り上げるために「めりはり」「心を合わせる」】ここに常に立ち戻りながら、児童の発想力を活かした主体的な活動づくり（含、話し合い活動）の充実を図る。

(2) 道徳教育の充実と「公益の心」の涵養

- ①心に響き心が揺れる「道徳の時間」の授業実践に努める。
（多様な考え・多面的な見方・根拠を明確にししながら、自分だったらどうするかを考える。）
- ②学校や地域・家庭の中で人のために自分の力を生かすことを考えて実践する。
（心を行動に変換する。思いを込める。相手の思いを感じる。利己から利他へ）

2 「かしこい知恵のふもとを築く」・・・豊かな「まなび」をはぐくむ指導

(1) 「確かな学力」を育成するための授業改善

- ①つきたい力を明確にし、主体的な学びをはぐくむ単元構成や指導方法を工夫する。
- ②知的好奇心を揺さぶり、学習の必要感を醸成する課題提示を工夫する。
- ③知識・技能の「習得」と、それらを「活用」し根拠を明確にした（ことばの吟味）考えの交流を通して、深い学びの授業実践を積み上げる。

（既習事項やこれからの学習・上学年へのつながり・生活とのつながり）

- ④個に応じたきめ細かな指導を工夫する。

(2) 自分の生活を主体的計画的に創り上げる視点を持ち、学習の習慣化と「内容」の定着

- ①クラスタイム、放課後の活用、学年テストを工夫し、むずかしい問題にも挑戦させる。
- ②「家庭学習」習慣化と、発達段階における質の向上を図る。

(3) 教育的ニーズに応じた特別支援教育の推進

- ①ユニバーサルデザインの考え方を生かした授業づくり・学級づくりを工夫する。
- ②一人一人の教育的ニーズを把握した個別の指導計画等の活用を進め、対応についての共通理解を適時に図りながら、継続した教育支援を行う。（必要に応じて外部機関との連携を図る。）
- ③的確な実態把握のもと、職員の連携による支援体制（TT体制など）を工夫する。
- ④保護者との日常的な連携を大切にし、子育てについての協働姿勢を構築する。

(4) 読書の好きな子ども

- ①本に親しむ活動を推進し、日常的に読書が楽しめる環境整備に努める。
- ②計画的な図書活用を図るとともに、選本指導と子ども相互の日常的読書紹介を工夫する。
- ③心を動かす読書・ことばを磨く読書の実践を積み上げるとともに、親子で読書に親しむ「家読」を推進する。（メディアコントロールの視点・親子のふれあい）
- ④新聞の活用（読む・書く）や資料の収集等、情報センター・学習センターとしての機能の充実を図るとともに、市立図書館との計画的な連携活用を大切にしていく。

3 「心と身体を日々にきたえる」・・・健やかでたくましい体をはぐくむ指導

(1) 心身の健康や安全への自己管理能力の向上

- ①基本的生活習慣の確立と生活リズムを意識し、計画的意識的に先のことを考えて時間を使う力をつける。(メディアコントロール)
- ②自ら気づき・考え・判断力を磨き、健康・安全に生活する。また、避難訓練を通していのちを守るための基本的行動習慣や危険回避能力の育成を図る。
- ③教職員の危機管理能力(定期的な安全点検と日常の気づき・「～かもしれない」という思考)を高めるとともに、児童の気づきを大切に安全点検を実施する。
- ④いのちのつながりやたくさんの人の愛情(願い)に気づき、感謝の気持ちを込めて給食をいただく態度を育てる。(ていねいに・残さず)また、将来に生きる望ましい食習慣の形成に努める。

(2) 運動することの楽しさ、喜びが実感できる活動づくり

- ①運動環境の整備と体を動かす日常的な遊びを奨励する。
- ②より高い目標を持ち、自己記録更新に向けて精一杯取り組む(あきらめない心)態度を育てる。
- ③同じ目標に向かって励まし合い助け合い、喜びや悔しさを分かち合うことで心を育てる。
- ④メディアから意識して離れる時間を持ち、親子で運動することを奨励する。

(学校保健委員会・PTA学年親子レク 等)